

西光寺だより

第二四号 令和二年十二月一日発行

今年もあとひと月あまりで終わりを迎えます。

二〇二〇年という年は、新型コロナウイルス感染症による国難ともいえる大変な年でありました。日本だけでなく世界中において、今だ感染拡大をみせる状況からみてもまだまだ普段のような日常を過ごすということは難しいことです。

マスクなしの生活や楽しい会食、旅行などが気軽にできる生活がいつ戻ってくるのかと気が重くなりますが、今日までを振り返ってみますと人間とはどんな状況が来ようとも、たくましく生きていく生命力があるのだなと感じることであります。

それぞれがそれぞれの場所において知恵を出し合い工夫し、継続していけるよう努力し続けるからこそ、日々の生活が送っていただけるのだと思います。毎日使っている物も、食べている物もどこかで誰かが**動き続けている**からこそ私たちのもとに届くことができる。

どんな状況にあらうとも「あきらめない力」「継続する力」。その力は自分のためだけではなく、必ず誰かの役に立っています。これからの生き抜く私たちにもその大切な力があるということを決して忘れてはならないと感じることでもあります。誰かのためは結局巡り巡って自分のためになるのですから。

二〇二〇年、西光寺にとりましても、皆様にとりましてもはじめての経験の年でありました。

ただ変わらぬことにあること、それは決して一人にはしなないと常に寄り添い、皆等しく救って下さる阿弥陀さまがおられるということ。その大きな存在が安心となり、これから来る未来において生き抜く力になることを確信することでありませう。

行き届かなかったこと多々あったと思いますが、皆様のおかげでこうして無事過ごすことができました。本当にありがとうございます。

最後に皆様、どうぞよいお年をお迎えください。

合掌

●今月のことば●

雨の日には

雨の日には聞かせていただくことのできない

言葉を超えたご説法がある

老いの日には

老いの日には聞かせていただけないご説法がある

病む日には

病む日にはご説法がある

お念仏申すことが身についている人には、自分の思いに逆らう出来事が次から次へと押し寄せてきても、それを阿弥陀さまのご説法と受け止め、そのことの意味を見つめ、人生の味わいを深めていくことができる。

阿弥陀さまの教えは、さまざまな姿や出来事となって、その都度私の心に気づかせ、どんな状況になろうとも**ありのままに受容し、それに順応できる**ような心の持ち方になり、柔軟な心に転じて下さる。

これからも生きてゆくうえでいろいろな出来事があるけれども、それぞれのご説法を聞かせていただく心構えで過ごしていきたいものであります。

《本願寺新報》

◆先月の報告◆

十一月二十三日（月・祝）西光寺本堂にて報恩講法要を厳修致しました。

正信偈のお勤めをさせていただき、親鸞聖人のご法事を皆様と共に偲ばせていただきました。例年での十四時・十九時の二座の予定を、この度は十四時、昼のみの一座と致しました。

また、できるだけ換気をし、密にならないよう受付を縁で行うなど感染対策をしながらの法要でありました。正信偈のお勤めもできるだけ声を控えてのお勤め、初めてのことで戸惑うところなど、多々あったと思いますが浄土真宗におきまして最も重要な報恩講法要を、中止の声もありましたが、皆様と協力してできたこと、終わってみると本当にホッとできた貴重な時間でありました。ありがとうございます。



◆十二月・一月の行事◆

・十二月 三十一日(木)

除夜の鐘

午後十一時五〇分

西光寺鐘楼

※感染対策をしながら行いますのでご了承ください。

※ぜんざい・お茶の接待は中止とさせていただきます。

本堂でのお参りはどうぞご自由にして下さい。

・令和三年

一月 一日(金)

元旦会法要は中止致します

※元旦会は中止致しますが、お正月三が日は、本堂を開けて

おりますので、どうぞご自由にお参りください。

その際、『お年玉』『御堂さん』『年回表』『カレンダー』の四点

はお持ち帰り下さい。来られない方はお速夜日にお持ちします。

※なお、一月のお速夜参りは四日(月)からです。